

株主の 皆様へ

第**61**期
第2四半期株主通信
2021年4月1日～2021年9月30日

TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

証券コード：6155

P1

社長インタビュー



T・O・P・I・C・S



新工場の名称が「あさひ工場」に決定しました。

P5

ServoROT-01

稼働ロボットシステムにより
お客様のお悩みを解消

P6 製品のご紹介

特集

TAKAMAZのニューノーマル

PLATFORM OVERVIEW

P7

P8 アンケートのご報告



当第2四半期は、お客様へのソリューション提案の推進や新市場開拓に取り組んだこと等が成果につながり、目標を上回りました。下期においても、2022年春に控えた「あさひ工場」操業開始に向けた準備を進めつつ、更なる業績改善に取り組んでいきます。

代表取締役社長 高松宗一郎

Q 当第2四半期実績について、お聞かせください。

当第2四半期では、新型コロナワクチン接種の本格化が進む中、経済政策の進展等により、輸出や設備投資の回復が鮮明化してきましたが、緊急事態宣言等の発出による社会経済活動の制限が続くなど、依然として先行きは不透明な状況で推移してきました。

一方で、当社グループの主力分野である工作機械業界においては、当第2四半期の業界受注総額が前年同期比98.1%増の7,854億円となるなど回復基調にあり、(一社)日本工作機械工業会は2021年暦年の業界受注総額見通しを1兆2,000億円から1兆4,500億円に引き上げました。

このような状況の中、お客様へのソリューション提案の推進に加え、主力受注先である自動車関係以外の建機、半導体、船舶および農機向けといった幅広いお客様から受注を獲得した結果、当社グループの工作機械受注も全ての地域で大幅に増加し、受注高が65億3百万円(前年同期比397.5%増)、受注残高が58億74百万円(同47.9%増)となりました。

また、売上高は80億9百万円(同10.3%増)、営業利益は5億39百万円(同279.4%増)、経常利益は5億71百万円(同190.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億93百万円(同1,050.3%増)の増収増益となりました。

Q サステナビリティについて、どのようにお考えですか。

カーボンニュートラルの実現などの気候変動への配慮やSDGsなど、サステナビリティを巡る課題に取り組んでいくことは、企業にとって重要なことであると認識しています。

当社グループは、企業価値の源泉であるモノづくりによって、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。これまでも省エネ・省スペースな新製品開発に注力し、環境負荷の低い製品をお客様に提供してきました。また、すでに認証取得しているISO14001に則って「基本理念」「環境方針」を掲げ、毎年設定する環境目標の達成に取り組んでいます。これらをはじめとして当社グループがこれまで取り組んできた活動は、サステナビリティの実現やSDGsの達成に寄与していると考えています。

また、サステナビリティを巡る取り組みについては取締役会や経営会議にて議論を進めており、社外取締役や社外監査役からも経験・知見によるご意見をいただきながら、重要課題(マテリアリティ)や具体的な取り組みの策定を進めております。

TAKAMAZは、常に挑戦し続けるモノづくりを通じて、サステナビリティを巡る課題に向き合っていくことで、長期的な企業価値の向上をはかっていく方針でありますので、今後も更に取り組みを進めていきます。



Q 先行きの見通しと今後の取り組みについて、お聞かせください。

わが国をはじめとした各国経済環境の見通しは依然として不透明ですが、緩やかに持ち直していくと見られ、工作機械業界においても、上期同様、回復傾向が継続するものと見込まれます。

リアルで開催されたEMO2021(イタリア)やMECT2021(名古屋)といった展示会では、コロナ禍にも関わらず多くの来場者でにぎわいを見せ、当社グループにおきましても多くのお客様から引合や受注をいただきました。楽観視できないものの、先行きに明るさも感じられます。

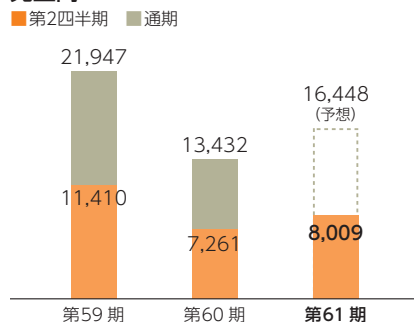
そこで上期実績と今後の見通しを踏まえ、通期業績予想を売上高164億48百万円、営業利益8億45百万円、経常利益9億15百万円、親会社株主に帰属する当期純利益6億29百万円に上方修正しました。全社一丸となって業績改善をはかっていくとともに、来春4月稼働となる「あさひ工場」を活かした中長期的な成長と企業価値向上に努めていきます。

当社グループは、今なすべきことに全社一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

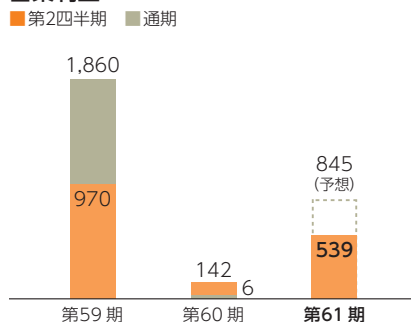
売上高

(単位:百万円)



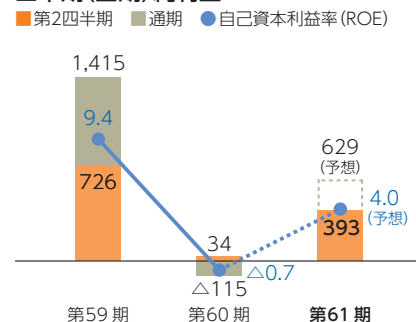
営業利益

(単位:百万円)

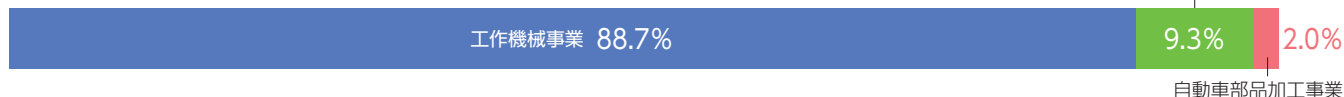


親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位:百万円、%)



第61期第2四半期 売上高構成比



工作機械事業

売上高 **7,101**百万円
(前年同期比 15.1%増)

営業利益 **490**百万円
(前年同期比 517.7%増)



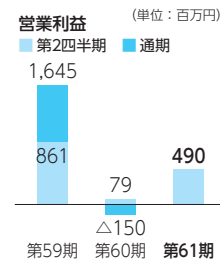
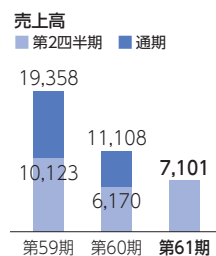
営業面では、受注ニーズのあるお客様へのソリューション提案の推進に加え、主力受注先である自動車関係以外にも積極的な営業活動を行い、幅広い業界のお客様から受注をいただきました。

また、PRコンテンツの強化として、HP上に製品や技術をまとめた特設ページや製品技術を紹介するコラムページを開設するなど、引き続きデジタルの活用を推進しました。

地域別の売上高は、国内向けが若干増加にとどまる中、アジア向けおよびヨーロッパ向けが大きく増加した結果、内需が46億5百万円(前年同期比6.2%増)、外需が24億96百万円(同36.0%増)、外需比率が35.2%(前年同期は29.8%)となりました。

した。

生産面では、コスト管理の徹底や、素早い仕様提案を推進し、最適生産の実施に努めてきました。



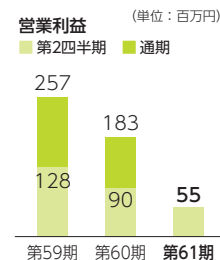
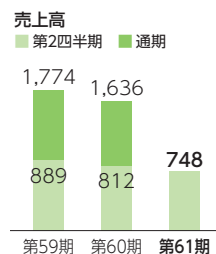
IT関連製造装置事業

売上高 **748**百万円
(前年同期比 7.8%減)

営業利益 **55**百万円
(前年同期比 37.9%減)

半導体関連の需要増加によって一部取引先から旺盛な受注があり、売上高に貢献しました。

その一方で、その他の取引先からのリピート受注が減少したことや、製品構成比が変化した影響により、売上高、営業利益ともに減少しました。



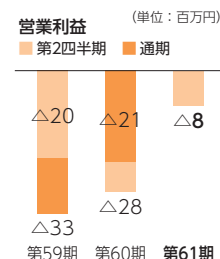
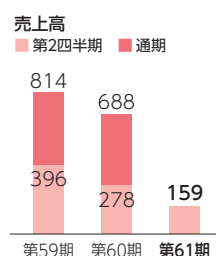
自動車部品加工事業

売上高 **159**百万円
(前年同期比 42.7%減)

営業利益 **△8**百万円
(前年同期は △28百万円)

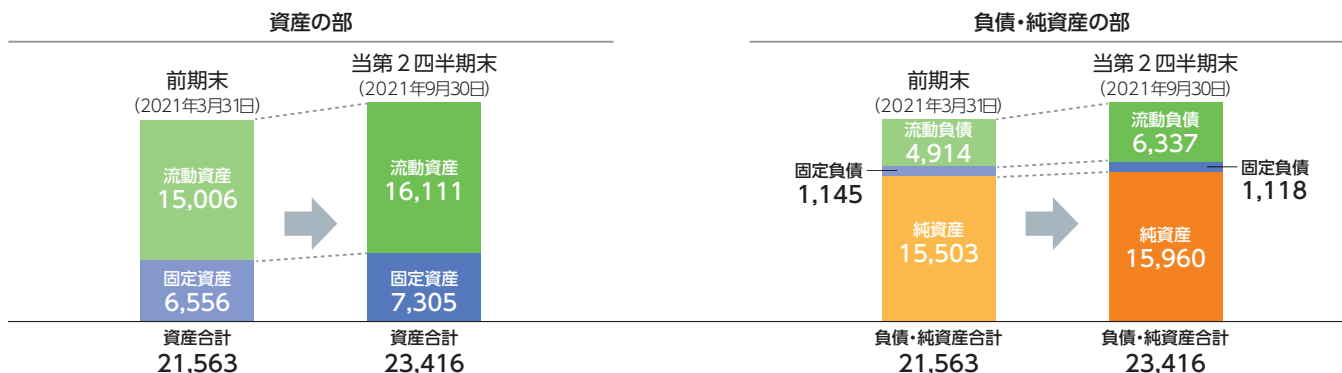
自動車部品の需要回復により、当社の業績も回復基調にありましたが、8月以降、半導体不足等による取引先の減産の影響があり、生産高や利益を押し下げました。

なお、自動車部品加工事業では「収益認識会計基準」等の適用により、売上高が2億22百万円減少していますが、利益に対する影響はありません。

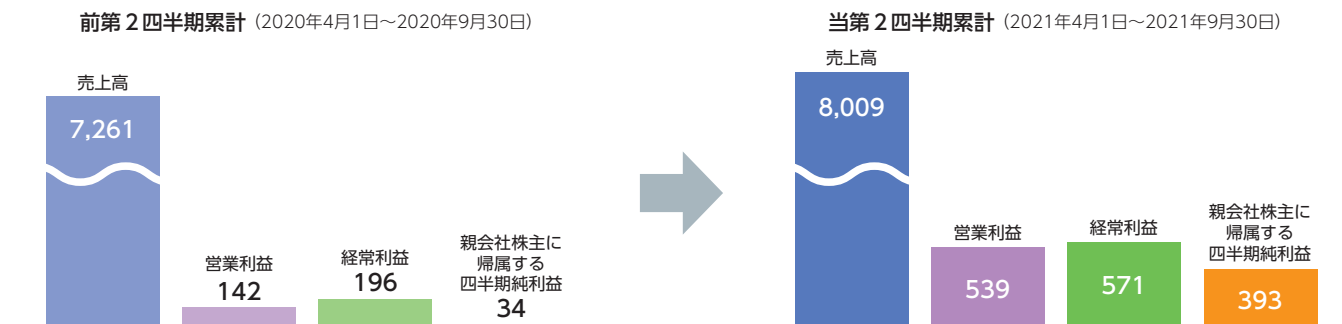


第2四半期連結財務諸表

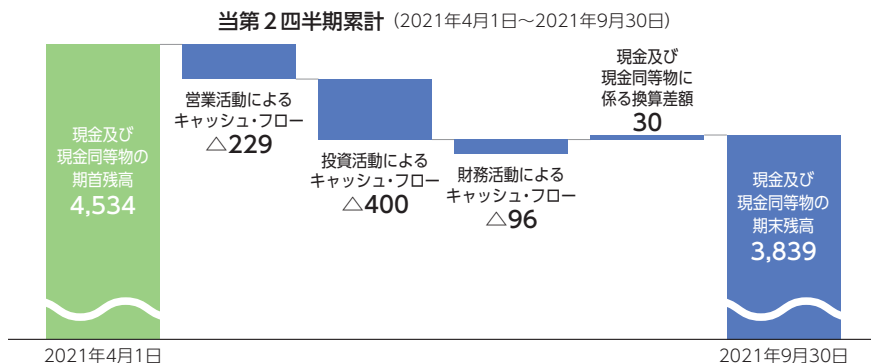
四半期連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



四半期連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



財務情報のご案内

詳細な財務情報は、当社IRサイトより
ご覧いただけます。



IR・投資家
向け情報
Click!



<https://www.takamaz.co.jp/ir/>

新工場のお知らせ

■ 新工場の名称が決定！

現在建設中の当社新工場の名称が「あさひ工場」に決定しました。

〈こめられた意味〉

- 所在地である「旭丘」を、ひらがなで優しく表現することで、分かりやすく、幅広い世代から親しまれ、永く愛されるネーミングを意図しました。
- 【あさひ(旭、朝日)】の響きは、「新しさ」「明るさ」「力強さ」「希望」「始まり」等のポジティブなイメージを連想させます。それは当社のFlagship Factory (旗艦工場)となる新工場の方向性と一致するものです。

名にこめられた思いにふさわしい工場を目指して、社員一丸となって邁進していきます。

■ 工事進捗状況

あさひ工場の建設工事が、着々と進んでいます。

2月に工事を開始したあさひ工場ですが、11月現在では外観はほぼ完成したため、内装工事や駐車場等の敷地整備を中心に進めています。

2022年4月の操業開始に向けて、最大限に生産能力を發揮できるよう、引き続き準備を進めていきます。

5月28日時点



7月9日時点



11月5日時点



進捗と今後のスケジュール

2021年2月：地鎮祭を執り行い、基礎工事開始

5月：立柱式を執り行い、鉄骨を建て始める

7月：屋根を取り付け始める

11月現在：外観が完成、内装工事中

2022年1月：竣工(予定)

2月：竣工式(予定)

4月：操業開始(予定)

EMO 2021

10月4日～9日の6日間、イタリアのミラノにてEMO 2021が開催されました。

EMOは世界最大規模の工作機械見本市であり、世界中の工作機械が集結しました。

工作機械需要が増加するヨーロッパでの開催であることから、会場では強い設備投資意欲が見られました。

当社ブースでは工程集約のニーズに応える「XYT-51」や幅広い加工を可能としながらコンパクトなサイズを実現した「XT-8MY」など、当社の技術力を活かした製品を展示し、ヨーロッパでの需要獲得に向けて、熱心なPRを行いました。



受賞しました！

この度、当社社員が「令和3年度 中部地方発明表彰 発明奨励賞」を、また大学との共同研究による新技術が「2021年度 精密工学会 北陸信越支部技術賞」を受賞しました。

受賞を励みに、今後も更なる優れた製品の開発、技術の発展に努めていきます。

■ 令和3年度 中部地方発明表彰 発明奨励賞 「操作盤上下運動連動式ドア開閉機構」

…機械の操作盤とドア、2つの上下移動を一つの動作で同時に行うことを可能とした機構で、使い勝手を損なわずに機械を小型化できます。

■ 2021年度 精密工学会 北陸信越支部技術賞 「工作機械の主軸状態監視システム スピモニー」

…どの機械にも共通する「特徴空間」を用いることで、主軸状態を監視するシステムで、異常検知を可能とし生産効率を向上させます。

NEW ServoROT-01

稼働ロボットシステムによりお客様のお悩みを解消

近年、変種変量生産の増加や深刻な人手不足の影響から、より操作が簡単で、段取り時間を短縮できる自動化システムが求められています。

そこで当社は、お客様におけるソリューション提案として、多関節ロボットとトレーチェンジャー(*)を組み合わせた自動化システム「ServoROT-01」を開発しました。

このシステムを工作機械製品と組み合わせることで、加工品質はそのままに、昼夜を問わず無人運転を実現します。また、安定供給・多台数管理も可能であり、お客様の生産効率の大幅アップに寄与します。

用語解説

(※)トレーチェンジャー

部品や製品が入ったトレー等を段積み、整列ストックし、機械への部品供給や加工製品の収納ができる搬送システム。



ServoROT-01

MECT2021に出展しました！

10月20日～23日の4日間、ポートメッセなごやにてMECT2021が開催され、当社製品「XT-6M」に「ServoROT-01」を組み合わせた自動化モデルを展示しました。ご来場されたお客様から大きな注目が集まり、熱心にご質問をいただきました。

また、展示会では、「XT-8MY」にてEV主要部品を想定したデモ加工を行いました。その他、新生産形態として1台に3つの加工モジュールを搭載し、生産の効率化が可能な「XV-3」の展示等、当社自慢の製品群をご紹介します。

MECT2021では多数の受注、引合をいただき、大きな成果を得ることができました。



特集：TAKAMAZのニューノーマル

新型コロナウイルス感染拡大の影響で世の中が大きく変化中、新しい生活様式である「ニューノーマル」が求められてきました。当社においても、時代や環境の変化に対応していくため、「ニューノーマル」を意識した取り組みを行っています。

営業活動

デジタルを活用し、
時間と場所を問わず、
お客様との関係強化

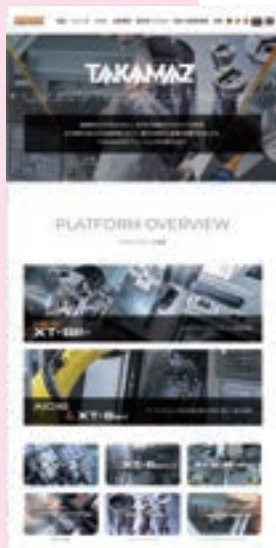
デジタルを活用した営業活動として、新製品やメンテナンス方法などの役立つ情報を詰め込んだバーチャル展示会や、製品やイベント等に関する情報をタイムリーにお知らせする公式SNSを開設しました。

また、HP上に新たに開設したコラムページでは、当社を紹介する記事や、展示会の報告、モノづくりのユニークなアイデアまで、様々なトピックをお届けしています。

コラムページ



バーチャル展示会



▲ バーチャル展示会はこちら

公式SNSアカウントのご紹介



TAKAMAZ公式YouTubeアカウント
<https://www.youtube.com/channel/UCettWe3wnX4t-XR2tNXMBCQ>



TAKAMAZ公式facebookアカウント
<https://www.facebook.com/takamaz.japan/>



TAKAMAZ公式Instagramアカウント
<https://www.instagram.com/takamaz.japan/>



必要な時間に、最適な場所で、
効率の良い働き方

働き方

社内Wi-Fiなどの社内インフラを整備し、全国内拠点であればいつでも、パソコン1台で仕事をすることを可能としました。

また、業務効率化のためWEB会議の活用を推進しており、国内外合わせて20以上ある拠点間で、定期的に各拠点を結んだWEB会議を実施しています。

そして、2022年4月操業予定のあさひ工場と本社間では、互いの状況をリアルタイムで把握できるモニターを利用したシステムを採用予定です。離れた工場にいても、機械の状況を時差なく把握し、ムダのない仕組みを構築します。

各拠点間を結んだWEB会議の様子



製品開発

無人化・省人化ニーズに対応し、
ニューノーマルな働き方に貢献

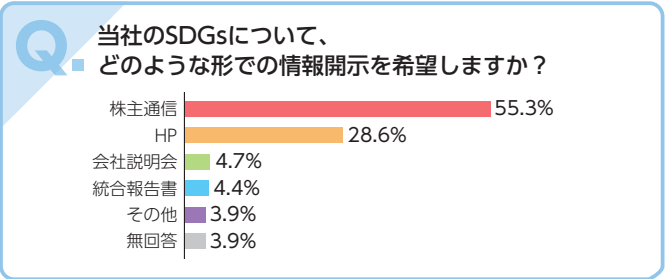
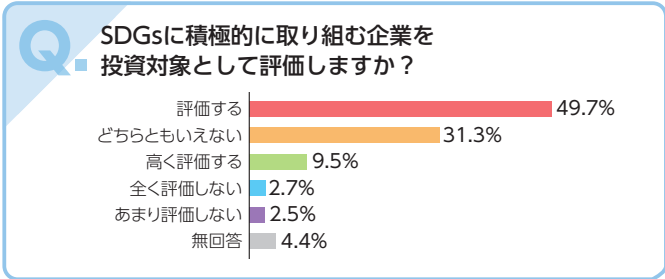
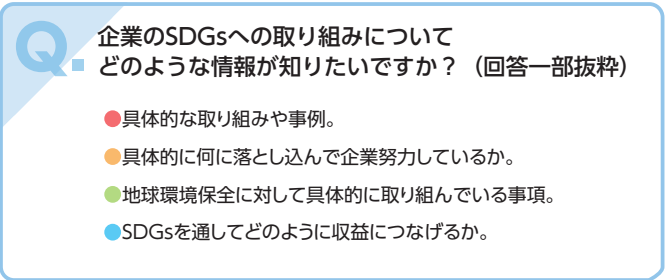
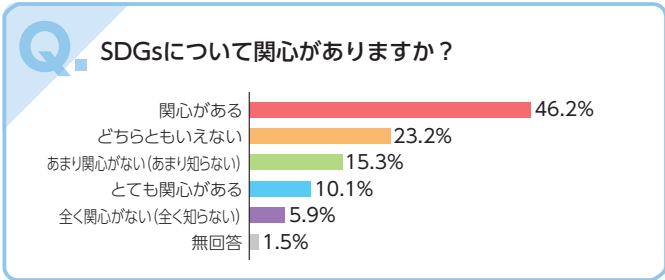
当社の強みでもある「自動化」をキーワードに、コロナの状況下で求められる、無人化・省人化ニーズに対応できるシステムをお客様にご提案しています。当社の最新の自動化システムについて、詳しくは6ページをご覧ください。

単元株主様の第60期株主通信に同封しましたアンケートにおきましては、たくさんのご回答をいただき誠にありがとうございました。お聞きした質問の中から、SDGsに関する質問のご回答をご報告させていただきます。

SDGsとは? 国連サミットにて採択された「持続可能な開発目標」のこと。
2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。



単元株主数
2,508名
アンケート回答数
803名
アンケート返信率
32.0%



TAKAMAZの地域貢献

当社は、様々な活動を通して、地域社会の発展と活性化に貢献しています。今回はその一部をご紹介します。

●地域スポーツチームへの支援

当社は、ツエーゲン金沢(サッカー)、金沢武士団(バスケットボール)、石川ミリオンスタース(野球)を支援しています。



●石川森づくり推進活動

「(公社)石川の森づくり推進協会」の会員として、定期的に当社社員が森づくり活動に参加しています。



●こども食堂応援定期預金

株式会社大和ネクスト銀行様の「こども食堂応援定期預金」を行い、地域のこども食堂の運営を応援しています。



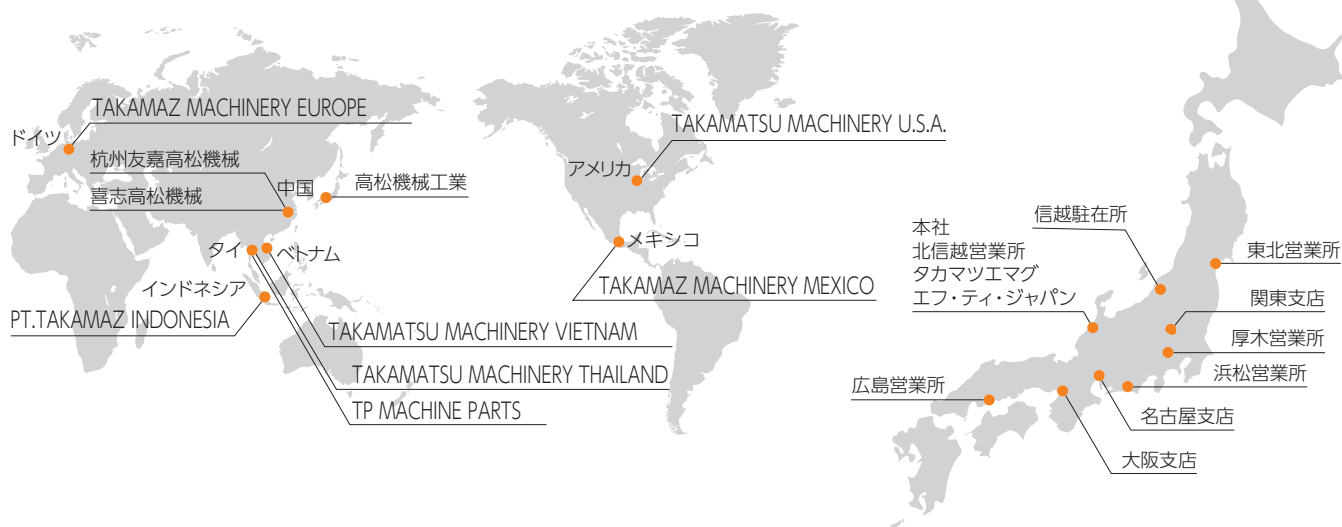
会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	545名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス ● 部品、コレットチャック等の製造、販売 ● IT関連製造装置の製造 ● 自動車部品の加工
ホームページアドレス	https://www.takamaz.co.jp

役員

代表取締役会長	高松喜与志
代表取締役社長	高松宗一郎
常務取締役	徳野穰
常務取締役	磯部稔
常務取締役	四十万尚
取締役	溝口清
取締役	村田俊哉
取締役(社外)	中西祐一
取締役(社外)	石原多賀子
取締役(社外)	池元ことみ
常勤監査役	成田秀信
監査役(社外)	杖村修司
監査役(社外)	高井和男

ネットワークとサービス体制



株式の状況

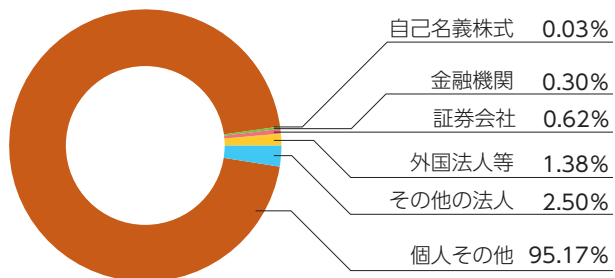
発行可能株式総数	30,000,000 株
発行済株式総数	11,020,000 株
1単元の株式数	100 株
株主数	3,044 名

大株主

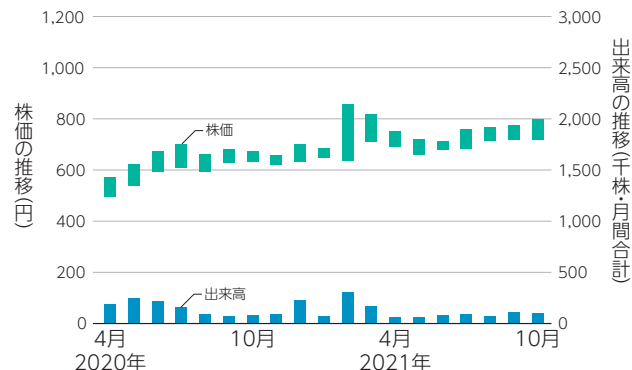
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	1,001	9.18
株式会社タカマツ	810	7.43
北国総合リース株式会社	433	3.97
株式会社北國銀行	408	3.74
日本生命保険相互会社	384	3.52
明治安田生命保険相互会社	360	3.30
株式会社朝日電機製作所	355	3.26
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	354	3.25
高松明毅	330	3.03
高松機械工業社員持株会	318	2.92

(注)持株比率は自己株式(114,813株)を控除して計算しております。

所有者別株主数比率



株価・出来高の推移

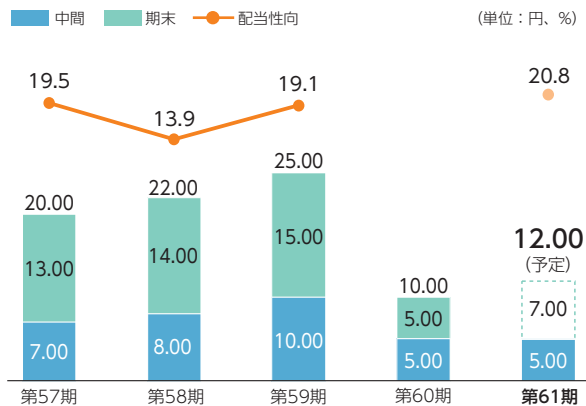


● 配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持していく方針です。

また、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行っていきます。当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としています。

● 1株当たり配当額



※第60期においては、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナスのため配当性向を表示していません。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日
(1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務
取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネット
ホームページURL) [https://www.smtb.jp/personal/procedure/
agency/](https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/)

公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページのご案内

ホームページでは、様々な企業情報や展示会・イベント情報、IR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください！



当社ウェブサイト「トップページ」

<https://www.takamaz.co.jp>



「株主・投資家情報」トップページ

